

新聞雜誌

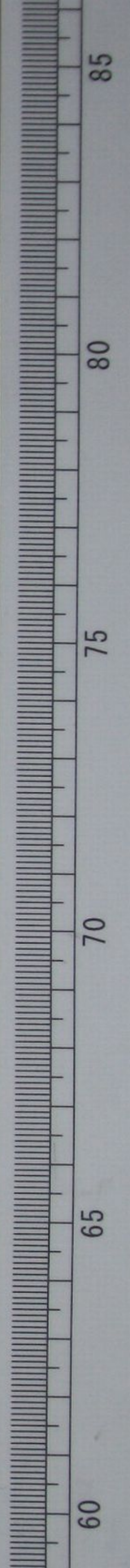
明治辛未十月

定價二枚

第七號



西垣文庫
文庫 10
7304
4



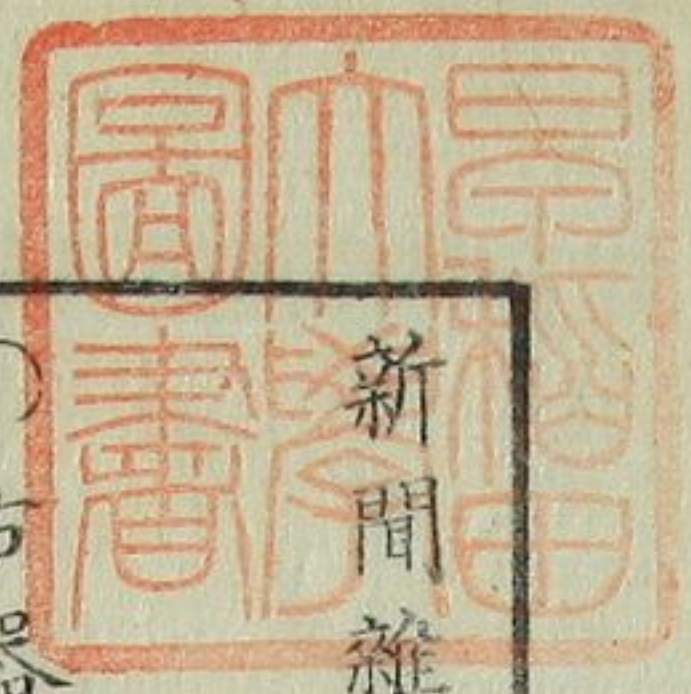
緒言

凡天下ノ物事日ニ新ナルニ我未タ見聞セザルヲ知テ吾知識ヲ廣ムルヨリ
 樂シキハナシ見聞ヲ狭キ田舎人ハ心頑ニ知暗ニテ疑惟ムク多ク竟ニ我ヲ
 是トシ人ヲ非トスル過リリ今口カハル所ニ御代ニ逢ヒテモ遠境ノ人ハ
 大政ノリテ知ラテ却テ疑非ル者モアルベシカクテハ逢カタク世ニ生レシカヒ
 ナシ今官許ヲ受テ新聞松局ヲ開キ大政ヲ始メ諸府藩縣ノ變革
 又ハ里巷ノ頃事外國ノ異聞マテ見聞ニ随ヒ刊行スル我日本國中
 ノ人々ニ新知ヲ開ク樂ヲ同シ頑ニ心僻メル事ヲ棄テテリ頑此冊子
 ヲ讀ム人々ヲ聞ラニテ推シ近ヲ知テ遠ヲ察シ天地間ニ我意外ノ驚ヲ
 喜可キ事多ク唯隅耳ヲ見ル田舎人タノ免レ夏虫氷ヲ疑笑有リ知
 夫ハヤラソ復古ノ大御代ニ生レシ人タルニ負カジト云ベケレ

文庫

新聞雜誌第十七號

明治四年辛未



○古器ノ珍藏シ以テ保全スベキ所以ハ制度沿革ヲ考
 証スルノ一端ニシテ切リニ破壊ス可ザルト已ニ聖
 諭ノ降ル所ナリ頃日後四位徳川昭武 聖旨ヲ奉シ貯
 藏ノ古樂器及ビ舞樂裝束等 官庫へ献納有タリ其額
 文ノ畧并樂器品目尤ノ如シ 小石川元水 戸縣邸園中
 涵徳亭ニ於テ光國以來相用齊昭代ニ至リ別テ愛藏仕
 置候古樂器類目錄ノ如ク何卒献納仕度云々 琵琶二
 面 銘 小席 箏 二弦 銘 立田川 琴 四弦 銘 聞天、周南、
 箏 大雅 笙

五管 銘五鳳九菊壽丸 篳篥一管 銘小男 笛四管 銘

蓋田鶴花月丸 太鼓二鼓 羯鼓二鼓 鉦鼓二鼓
古獅子田以

弘前縣權大參事杉山龍江同木村建同小參事佐藤

正熙同岩洲直惟同神盛苗等辭職上表寫

臣等伏テ言ス 太政復古萬機更始ノ日ニ際シ嚮ニ誤

テ參事ノ重任ヲ辱シ荏苒奉職於今曾テ尺寸ノ功ヲ奏

セズ願ニ素餐ノ責逃ル、所ナシ臣等實ニ恐悚ノ至ニ

不堪今ヤ 朝廷新ニ藩ヲ廢シ縣ヲ置有各無實ノ弊ヲ

除キ大ニ制度ヲ一ニシ以テ萬國ト對峙セントス 皇

運隆盛日ヲ期シテ見ルベシ然ル賢ヲ舉能ニ任シ 聖

誤ヲ質成スルニ非ズンハ又焉ソ其効ヲ致リシ顧ニ臣

等素ヨリ薄徳菲才自ラ過ヲ補フニ暇アラズ豈敢テ再

ヒ僥倖ヲ望メンヤ即チ謹テ別紙辞表ヲ奉シ以テ 朝

命ヲ待唯恐クハ道路遼遠 命下ル當ニ日アルベシ然

シテ縣事百端一日其務ヲ曠フスベカラズ是ニ於テ臣

等相共ニ懔懔假リニ參事ノ事ヲ擬執シ以テ且々 朝

裁ノ仰ク耳是臣等惓惓ノ至ニ勝ヘズ云々又同縣權大

參事大道寺繁禎同少參事山野元敏同様辞職ノ上表セ

ル由 横濱刊行シヤハンガセツト新聞節譯

此度「佛國」ヨリ「字國」へ差出ス戦争償金五十億「フラング」
 我十ヲ或人試ニ「佛國」五「フラング」ノ金貨ヲ以テ精美
 セシニ此重サ五千五百萬斤ナリ若シ是ヲ連接シテ地
 上ニ布ケバ殆ト地球ヲ一周ス又是ヲ積重マレハ高サ
 千六百七十六里ノ金柱トナルベシ此柱ヲ「巴里斯」ノ中
 央ニ建テ試ニ「伯靈」都府ノ方ニ向テ倒サバ「伯靈」ハ金柱
 ノ長ク三分一ノ處ニアルベシ又人アツテ一字間ニ一
 萬ノ五「フラング」金貨ヲ算へ上ル割合ヲ以テ一ヶ年三
 百日ト定メ毎日八字間ツ、算へ立レハ其人三十歳ニ
 初テ七十歳ニシテ算へ終ルベシト云リ○東海道路傍

ノ並木ハ夏ハ日陰ヲナシ冬ハ風雪ヲ防ギ且ツ其觀美
 ニシテ大ニ旅情ヲ慰スルモノナリシヲ近頃東京ヨリ
 大坂へ傳信線ヲ懸クル為メ横濱小田原ノ間此並木ヲ
 切拂ヘリ此ノ如ク切ラズトモ決シテ暴風ノ為メニ破
 ラル、ノ患ハナカルヘキニ大ニ街道ノ風景ヲ失ヘリ
 傳信線ヲ張ルノ後ハ他日必ズ鐵道モ設ルナルベシ其
 時ニ及テ復ビ植ルモ能ハズ實ニ殺風景ト謂フベシ○
 上海日刊新聞ニ云シヤ「ト云船ニテ天津ヨリ一萬
 六千テールノ程ノ棹金ヲ上海ノ高社へ積ミ送りシニ
 盜ノ爲ニ奪ヒ取ラレ其蹤跡更ニ分ラズ穿鑿中ナリ

新聞雜誌 第十七

○先頃武州千住邊ノ商人山谷土手ヲ通行ヒシニ僭擬
 ノ絹衣裳ニテ駕籠ノ内ヨリ呼止メシ者アリ誰ナラン
 トヨク見ルニ預テ見知タル元櫛多ノ者ニテアリケリ
 彼云フ吾等多年吉原樓上ノ宴遊ヲ羨ミ居シガ此圃ノ
 御仁政ニテ始テ宿志ヲ遂ルコトヲ得タリ已ニ昨夜モ一
 大樓ニテ頗ル歡樂ヲ極ム今ヤ即チ再盟ヲ尋ントス幸
 兄ト同伴セバ如何ト商人漸ク事ニ托シテ辞シ去レリトシ
 ○頃日吉原何樓カ知ラズ元櫛多ノ者一娼婦ニ通ヒシ
 ニ兼テ富有ノ者ナレバ流石ニ娼妓モ一時我身ノ助ケ
 ニヒント之ヲ騙シ愛シケレバ誠真已ニ情アリト思ヒ

許多ノ金錢ノ盡ルモ知ラズ衣類道モ典却シ猶情好ヲ
 求ノシニ娼妓ハ最早是道ト見限リ愛想眷戀ナキノミ
 ナラズ刺ハ一首ノ狂歌ヲ讀ミ與ヘシトゾ其歌ニ「宿縁
 カ穢多カ狐ニタマヒレテ毛物トコロカ身ノ皮ノハダ
 男モ頓ル洒落モノト見ヘテ其反歌ニ「其昔シ毛物ハギ
 タル報ヒ来テ身ノ皮キリテ肉ニ喰ハル」想ノニ先日
 山谷ニテ商人ニ誇リシハ定テ此者ニテヤアランカ
 ○箕作大六倫敦ヨリ其父秋平ニ送レル書中ニ豚兒健
 康ニシテ勉學セリ比日學校ノ試業アリ幸ニ尤ノ如ク
 六課ノ褒賞ヲ得タリ 英學 數學 地學 第一等 測

地學第二等 地圖ヲ画ク術 佛學第三等 兎此度ヲ
 チン并バリシヤ學ニ達セザルノミニテ進テ大學校ニ
 入ル能ズ實ニ遺憾ニ堪ズ今ヨリ更ニ憤勵此ニ科ヲ研
 究シ來歲ハ必ズ大學校ニ入ルヲ期セリト云々 又三
 宮某ヨリ添贈ノ書ニ云令息勉學無他近來大ニ進歩
 リ已ニ此頃試業ニ六課ノ褒賞ヲ得タリ一課スラ頗ル
 難キ事ナルニ六課ニ至テハ實ニ驚嘆ニ堪ズ令息ノ師
 タル者モ其穎敏ヲ稱贊セリ此事一時新聞紙ニモ出テ
 英國內ニ傳播シ 皇國留學生ノ面目ニ關係セル丁ニ
 テ僕カ輩モ大ニ悦喜セリ少年生徒之ヲ聞カバ又憤發

ノ一助トモナランカト云々

横濱刊行「ジャッパン」ヘラルト新聞抄譯

今朝 九月七日 我 德嶋縣ノ船ボシウ丸品川へ入港ノ砌
 東京ヨリ横濱へ至ル日本ノ荷船ニ衝突セリ德嶋士官
 ノ意ヲ用ヒズシテ其船ヲ取扱ヒタル「ハイナガ」船
 ニ乗組タル外國人皆之ヲ見タリ然ルニ德島ノ船ハ彼
 荷船ノ沈没セシヲ救ハンガ為ニ蒸氣ヲ止ントモセズ
 直今ニ駛セ去レリ願クハ德島縣ヨリ此憐ハベキ舟夫
 等ニ厚ク償アル様ナシタシ○洋銀ノ相場下落シテ百
 元ニ付一分銀三百三十五箇ニ至レリ 銀五十匁ニ
 分五厘

卯紙ノ買人ハ大抵既ニ此地ヲ出立シテ歐羅巴ニ歸レ
 リ之ニ由テ價下落シ極上品一枚僅ニ廿五匁ヨリ四十
 匁ノ間ナリト云日本人明年ハ例年ノ半高ヲ造リテ是
 迄ニケ年ノ損失ヲ償ハント云實ニ日本人ハ多ク生糸
 ヲ作りテ蚕卵紙ヲ減スベキナリ○普ノビスルクト
 奥ノビウストトノ近頃ノ商議ニテ日耳曼奧地利魯西
 亞以太利ノ諸國和親ノ盟約アリ他日若シ歐洲ノ靜謐
 ヲ攪擾セント企ル者アラバ此諸國舉テ之ヲ伐ント約
 セシ由ノ風説アレ此ハ一般ニ信用シガタシ又奧地利
 帝日耳曼帝ト次週ニサルスブルグニ會シテ國事ヲ

議セントスルノ説アリ歟ハ實説ナラン○佛蘭西國會
 ニ於テ劇論兩日ノ間續キテ竟ニ千エル氏ニ共和政治
 ノ大頭領ノ稱號ヲ與ヘ其行事ヲ會議衆ニ答フ可クハ
 諸宰相ヲ黜陟シテ可ナルハ全權ヲ許スノ建議書ヲ出
 セリ○ストラスブルル故ト佛ノ地ニ萬三千餘ノ人民
 佛蘭西瑞西及米利堅ニ移住セントテ當地ヲ去レリ若
 シ此割合ニ移住スル者引續クナラバ久シカラズシテ
 アルサスノ地ニハ一人モ住スル者無キニ至ルベシ此
 事件佛國ヨリ見ルトキハ頗ル愉快ニ思フベシ且佛國
 ハ敗衄ノ後ト雖モ猶人望ノ歸スル所アルヲ見ルニ足

レリ然レモアルサス入移住ヲ弭メテ猶其處ニ止リ居
 ラハ却テ國家ノ為ニハ善謀ナラン○九月廿日橫濱碇
 泊ノ「アル」号船ニ於テ先日東京ノ船頭ヲ砲撃シタル「ロ
 マリン」テウリ」名ノ事ヲ裁判アリタリ同人六百「フラ
 ング」ノ過料ヲ出シ其上ニケ年ノ入宰ヲ命ゼラレタリ
 ○先般東海道熱田鳴海ノ間桑名四日市ノ間ニテ西度
 劍便飛脚ヲ切害シタル盜賊アリシニ 官ヨリ沼道ノ
 縣々へ嚴重探索捕縛セシムベキノ命下リ此節右賊魁
 滑川源吾彌藤次ヲ初メ數名ノ黨類悉ク召捕ニ相成タ
 ル由誠ニ尋常市街ノ飛脚ト變リ當ニ衆人ノ辨用ノミ

ナラズ重キ 官廳ノ公用ヲモ建スル劍便ナレバ右様
 異變ノ時モ 官ノ取締嚴重ニテ直キニ賊徒捕縛ニ就
 キ後來防護ノ方法モ更ニ確立スルニ至ルモノ實ニ四
 方通信者ノ大幸ト云ベシ殊ニ右切害ニ逢タル者ヲ憐
 マセラレ其家族共へ許多ノ金子ヲ賜ハリシ由仁慈ノ
 恩政感奉スルニ餘アリト云ベン
 ○或人云從來ノ文學ハ 皇漢二國ノミ今ヤ五大洲ノ
 學興レリ此ニ達セザレバ 通儒ト稱シ難シ今ノ學者豈
 一層勉強セザル可ンヤ古人寸陰ヲ惜ム今人宜ク分陰
 ヲ惜ヘシ閑話ハ邦人ノ通病ニシテ偶一箇ノ用事ヲ説

ントスル前後必ズ徒爾ノ閑語ヲ雜ヘリ甚キ者ハ終日
徹夜空ク口舌ヲ費シ宛モ醉人ノ重語病客ノ謔言ニ等
シ此等ノ人ハ自ラ事業ヲ成ス能ハサルノミナラズ大
ニ他ノ勉強ヲ妨ケリ洋人ハ絶テ此惡習ナシ米人ケフ
ロン曾テ言フ日本人ノ我ヲ訪フ者多クハ米國ノ寒暖
如何ヲ問ニ過キズ夫米國ノ寒暖ハ地理書ニ在テ詳ナ
リ何ゾ必シモ此等無用ノ談ヲナサント此言吾輩頂門
ノ一針ナリ總テ人ヲ訪フニモ已カ閑暇ナルヲ以テ他
ノ繁務ヲ顧ミザル者アリ注意セザルベケンヤト

新聞雜誌第十七號 終

報告

余壯齡ヨリ特ニ心ヲ眼科ニ專ニシ西籍ヲ涉獵スル
既ニ久シ然レ從來傳フル所ノ方法據ル可キ者甚稀ナ
リ動モスレバ輒為メニ卷ヲ掩テ嘆惜ス蓋西醫ノ道日
新ノ業ナリ其治術ノ梗概ヲ舉レバ則物ニ格リ知テヲ
致シ其理ヲ明瞭シテ以テ其秘ヲ探リ其源ヲ窮ム晚近
ニ迨テ其學大ニ進ミ眼科治法發明スル所ノ者亦鮮カ
ラズト為ス故ニ昨日治セザルノ病今日治ス可シト為
ス者往々之アリ乃官暇其書ヲ譯述シ一ハ則其法ヲ發
シテ以テ世ニ布キ一ハ則其術ヲ施シテ以テ病ヲ治シ

新聞雜誌第十七號

遂ニ關境ノ士民ヲシテ眼目ノ患ヲ除カシメント欲ス
是レ吾ガ疇昔ノ宿志ナリ然レ官途鞅掌東奔西走シテ
久シク其業ヲ廢ス而シテ今復官暇將ニ素志ヲ償テ以
テ養生ヲシテ開化ノ餘澤ニ浴セシメントス若シ眼ヲ
患フ者來テ治ヲ求ルヲアラバ誤認テ坊間尋常ノ販藥
者流ト為スナカレ 家ハ東京牛籠御門内飯田町北

三浦有恒謹白

二合半坂下ニアリ
一寺佛戰記 芳川春濤先生譯 初篇二篇

右私店ニ於テ發兌仕候開御求奉希候

東京日本橋通一丁目
須原屋茂兵衛